

# 地区だより

VOL 5 1988.9.1  
発行 西湘放射線技師会

残暑 御見舞申し上げます

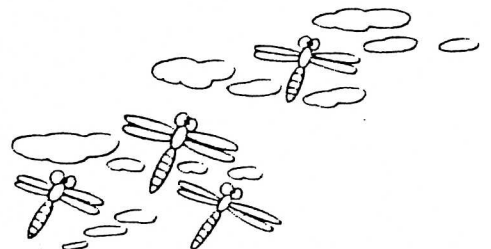
昨年とうってかわって今年は、長雨が続き真夏日が殆ど無いまま子供達の夏休みも終わろうとしています、会員の皆様はこの夏をどのようにお過ごしでしょうか。

白球舞う、高校球児の熱戦も終り、早くも肌に秋風が感じられますが予報では9月前半には暑い日がやってくるそうです。

それにしても群発地震に異常気象続き・・・なにやら天変地異がなければ良いが、と祈っているのは私だけでしょうか。

何はともあれこの様な時には、自然環境に負けない体力作りに心がけ、自分なりにストレスを解消されて会員の皆様、揃って健康に過されることを心から祈っております。

西湘放射線技師会会長 水沢 良隆



## 地区委員会報告

\* 全国統一講習会日程決まる。

11/06, 11/13, 12/04, 1/08, 1/22, 2/12, 2/19, 3/05, 3/19,  
(下線は県講習会を併用、他の日は会場未定)

神奈川県講習会日程(参考)

9/18, 10/30, 11/13, 12/04, 1/08, 2/05,

(11/13のみ神奈川県立歯科大学, 他日は総合福祉センター)

全国統一講習会は日放技主催によるもので、全国に先駆け神奈川県、山口県で試行される。受講資格、申し込み方法、費用(2万円以内:受講料+テキスト代)等詳細は会誌96号(9月発行)に案内されます。要注意。

\* 県会員名簿発行のご案内

会誌97号(11月発行)と一緒に郵送されます。但し勤務先、現住所等変更の有る方は会誌96号折り込み用紙に記入の上、10月3日までに県放技事務局へ返送要。

(記載事項に変更がない会員は返送不要)

\* 中堅技師教育講習会のご案内

去る7月29日技師長研修会が横浜郵便貯金会館で行われ、西湘地区からも3名参加されました。引き続き中堅技師の方々を対象に来年1,2月頃1泊の予定で計画中。

\* 医療に貢献する菜(去る拡大委員会に添い配布準備中)

会誌95号栗田副会長の巻頭言、或いは去る6月西湘放技会勉強会の中で小林副会長、斎藤担当理事のお話しにもありましたが、私達が日常の業務を職業として忠実に誠意をもって行う上に基本的な問題は存在しないのですが、些細なことから誤解や非難を受けないために患者さんの身になった場合の気配り等について、この「菜」が参考になればと思います。

\* 第13回体育祭 10月16日(日) 於: 県立芹香院

昨年はバレーボール大会で西湘混合チームが見事初優勝しましたが、今年の体育祭は運動会を行います。(体力測定など、盛り沢山)

県講習会と同日になってしまいましたが、家族で参加を望んでいます。

\* 県放技事務局長交替

9月より小菅事務局長さんが新任されます。

今まで榎本事務局長さん御苦勞様でした。

従来通り事務局への電話は午後からにして下さい。

以上 (山田)

## 夏期レク報告

### □レク幹事より□

長かった梅雨も明け、当日は日頃の会員の善行を示すかの如く、海上は風目にしみる夏空の明るさの中、昨年的好评が幸いしてか総勢99名という盛会でありました。幹事役員一同いたらぬ所もあったと思いますが楽しんでいただけでしょうか。

1回目の地曳網は、網が切れるというアクシデントがありましたが、2回目3回目とも大漁のしらすが出た、新鮮な生しらすに舌つづみをうちました。子供達に負けじと全員が夏のひととき童心に返った思いでもありました。御出席頂いた皆様のおかげで、事故もなく盛会に終了できましたことを幹事一同、紙面を借り感謝致します。

レク担当幹事一同

### □地曳網に参加して□

当日は、潮風がとても気持ちよく海を見ながら飲んだり、食べたり。最初から盛り沢山でした。

いよいよ地曳網、初めて曳く網は、思っていたよりずっと重くて、手に豆をつくりながらも一所懸命、子供も大人も一緒になって「重いね」なんて言いながら、何往復もしてやっと引きあげました。さぞや大漁、と思いきや、とれたのはしらす少々。結局、2回目もしらすしかとれなかったけれども、生のしらすを生薑としょうゆをかけてもりもり食べてしまいました。

朝、早く起きるのはつらかったけれども、とっても楽しかったです。来年も是非、手に豆をつくりながら、今度は大物を引きあげてみたいです。

横浜緑病院 放射線技師 村井千秋  
(藤井技師の友人)

### □父のサークルに参加して□

日頃、病院で働いている人たちが、あんなにがんばって綱をひいている姿を見て、私はとても気持ちがスカッとして、参加して良かったなと思いました。

皆でやった「宝さがし」「スイカ割り」小さい子供も、楽しんでいて、大人達もカラオケで盛り上がっていたと思います。そして、大人どうしのデュエットもなかなか人気があったようで、とても面白かったです。お魚も、たくさん取れたようでした中には、アナゴなどが入っており、人々を喜ばせたようです。又、生シラスもおいしくて、私はたくさん食べてしまいました。そして、「やっぱり取りたては、おいしいな、いっしょうけんめい引いたかいがあったな」と思いました。

この様な事が、私達の「夏休み」に、一つ思い出になったと思えました。

又、大人の「お酒の飲みすぎ」は、気になりましたが、又、来年も、そして再来年も続けてほしいと思えました。

国府津小学校6年 中根 希子

### □じびきあみ□

きょう、お父さんたちのぎし会の行事で二宮の海で、地びきあみをみんなでやりました。さいしょの一回は、あみがなにかにひっかかってしまいました。二回目は、いわしとあなごをとりました。三回目に、ふぐと、しらす、たくさんとれました。ふぐは、海にかえしてやりました。しらすは、たべたり、おみやげに、もって帰りました。あみを、ひくとき重かった。さいしょはつまんなかった、だけどあとから楽しくなった。さいごのじびきあみで、しらすとあなごがとれたので、とってもうれしかった。また行けるといいな。

芦子小学校 4年 小宮 旭彦



## —— 病院紹介 ——

### 小澤病院

当院は明治45年に先代院長、小澤三郎医師が小澤内科病院として現在地に開設し、昭和2年に小澤俣男医師が院長に就任した後、昭和36年に小澤病院として現在に至るまで75年もの長い間、地域医療の役割を果たしてまいりました。

内科・外科・整形外科・産婦人科・小児科・麻酔科・理学療法科を有し、検査部門として放射線科・外来検査科・中央検査科があり、ICU室を新館に設備しております。

総ベッド数は203床で、看護部門も3交替制をとっており、今年度より、高等看護学院を併設し、近年の医療の高度化に対応出来る様スタッフの教育にも力を入れております。

放射線科としては、昭和62年7月に新館が完成する以前は一般撮影室・透視室・CT室と三部屋がそれぞれ離れており、作業効率、患者の移動、連絡等で不便な思いをしておりましたので新館を作る際に、各々の撮影室を一ヶ所にまとめる事を第一条件とし、患者の動線等を考慮し、一階フロアーに設けました。

第一X線室が透視室（アコマSX-7、天井走行付）、第二X線室が一般撮影室（天井走行、ブッキーテーブル、立位撮影台マイクロファイン付、アコマMXR-HF-105型高周波方式乳房X線撮影装置）、第三X線室が断層撮影室（東芝LGI-2、キャノンCXM2-100間接100 $\mu$ mミラーカメラ、ブッキーテーブル、立位高圧ブッキー台）そしてCT室（GE CT/T8800）と四部屋にしました。

他に回診車、外科用移動式X線テレビ装置（アコマMC-50）が設備されており、医師の要求するX線写真を提供できるよう日々務めております。

部屋の配置は、廊下右手前より、第一X線室、第二X線室、第三X線室と並べ、廊下をはさんで、CT室としました。第一・二・三X線室は裏で廊下型式に続いており、そこに操作盤を据え、操作室兼用としました。暗室は、この廊下兼操作室のつき当りにあり、自現機（富士FPM-4000・オートフィーダー・ケミカルミキサー付）を設置しました。

技師は各々の部屋の作業状況が把握でき、直線的な動線で作業効率が向上し、廊下で順番待ちしている患者さんの前をあわただしく動くこともなくなりました。

撮影枚数は1ヶ月約2300枚、CT250件を作業するにはちょっとぜいたくなスペースといえますが、撮影枚数が増えて手狭になったからとすぐにはX線室を拡げることはできない事などを考慮して、半永久的にこの配置で作業できるように設計時には細部まで注意を払いました。  
(放射線科 田中・平田)

### ■訪問記■

私達が訪問して邪魔にならない時間帯を事前に田中技師長へお尋ねし、8月12日4時頃訪ねる事にした。個人的には度々知人が入院でお世話になるなど初見学が楽しみだ。

駅前大通り一等地に位置し、増築後の外観は同じと思いきや中に入ってびっくりした。

外来棟の案内線に従い新館へ通じる大自動ドア2枚くぐると広々とした放射線棟が1Fの大部分をしめる。CT室 暗室 操作室何も彼も広く、合理的工夫も随所に感じた。

患者と技師の導線が完全に独立していること、各撮影室は吊下げ式スライド扉採用のため床面に全く段がない。設備も素晴らしく充実した放射線室がここにもあったの一言。

新館から中庭へ出て見上げれば隣の新別館看護養成棟の灯がやけに眩しかった。（山田）

# 昭和63年度 診療放射線技師長研修会

に参加して S. 63. 08. 29

湯河原厚生年金病院 今本 寛策

去る63年7月29日 横浜郵便貯金会館に於いて昭和63年度第1回診療放射線技師長研修会が出席者40名で開催されました。神奈川県技師会から病院への要請が強かったのか、病院からの出張命令の形で出席することができました。

午前10時から午後8時まで下記の表題で研修が行われました。

## I) 病院における医療評価について。

講師 日本大学医学部助教授 病院管理学教室 大道 久 先生

(内容) 病院機能評価表を作り

- |             |      |               |      |
|-------------|------|---------------|------|
| 1) 基本的事項    | 10項目 | 4) 診療の学術性     | 25項目 |
| 2) 地域ニーズの反映 | 15項目 | 5) 病院運営管理の合理性 | 25項目 |
| 3) 患者の満足と安心 | 25項目 |               |      |

上記の項目について100項目中どれだけ合格点をもらえる項目があるかによって病院の医療評価をしようと言うもので客観的に数字として表現できるので良い方法だと思いました。

## II) 企業における中間監督者の役割と経営について

講師 東芝人事教育部 担当部長 新谷 嘉内 先生

(内容についての感想)

民間の企業が生産性向上の為にいかに人間教育に力を入れているか、特に管理の立場にある人への人間教育に注意を払っていることが知らされた。振り返ってみると一般の医療機関の人には高学歴の人が居るせいか人間教育にあまり時間が使われないように思います。新任の職員に対する基礎となる人間教育は必要だと感じた。

## III) 全体討議

(内容について)

40名の出席者を4班に分け各班でテーマを選び討議をし、代表者が全体の場で発表する形式で行われた。

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 1班 | 放射線科の機能評価は          |
| 2班 | 年上の部下に対する指導法について    |
| 3班 | 管理しにくい部下とは          |
| 4班 | 患者さん中心の病院づくりとはどのように |

全体としての感想

神奈川県技師会主催の第1回の研修であったが、病院(職場)から外に出て違った視点から病院内の人間関係、人間の上下関係、病院の設備、経営等を考え直す場を与えられたことは役立つと思います。県の技師会では引き続き主任者に対する講習会を開催したい意向があるようだが、是非開催して戴きたいと思います。

以上

## 学術講演会のお知らせ

恒例となりました、秋の学術講演会を下記の通り行う予定です  
講師等詳細が決まり次第、案内状を送りますので皆さまお誘い合わせの上  
御参加下さい。

日時 昭和63年10月27日 (木) 午後6:00より

場所 小田原市立病院 2階会議室

演題 MRI装置について 講師未定

血管造影剤の進歩と最近の動向(仮題) 日本シエリング株式会社

### 入会・退会欄

63年7月入会 間中病院 加藤 靖治

7月退会 林 病院 小宮山 道広

### 編集後記

子供達の夏休も終り、朝の出勤風景にいつもの賑やかさが戻ってきました。  
この夏は楽しい思い出をいくつ作ることができたでしょうか。  
地曳網の思い出の作文を読んでいると、行間から子供達の笑顔が浮かびあがっ  
てくるようで、今年も苦労したかいがあったなど、今、しみじみ思っています。  
百人近い人達が集い、一つの思い出を共有することの素晴らしさ、と同時に一つ  
の事を成し遂げる集団のパワー、これこそ西湘放射線技師会の力だと感動した  
一日でした。 「徳安」

